

社会福祉法人 仁生社 江戸川病院

看護部長 青木正子

今年の社会動向における自施設の取り組み

テーマ：江戸川病院入職者に対するコロナ禍での帰属意識向上アクション

病院概要：

私たちのモットーは“**みんなのしあわせとおもいやり**”です。

私たちは患者さまのみならず、ご家族、医療人、地域住民までを考えた、全人的医療を病院医療の原点と考えております。また、急性期医療を担う地域の中核病院として、89年の歴史があり、地域医療連携の中心的役割を果たすとともに、高度ながん診療を地域に提供し、がん難民ゼロを目指します。

“愛と創造力を無限創造する機関”、それが江戸川病院です。



江戸川病院 本館入口

内容：

今年度はコロナ禍で、あらゆるコミュニケーション不足が、どの医療機関でも共通の悩みだったと思われます。そのような中でも、私自身が一番危惧していたのは、看護師採用面接と内定者フォローの2点です。つまり、採用面接をする際、お互いマスクをしたままで最低限の会話と院内見学をするだけのコミュニケーションでたとえ内定したとしても、相手は安心した気持ちで江戸川病院を選べないのではないか？また、内定から入職の間、コロナを理由に何もフォローしなくてよいのか？ということです。

私たちは、内定者が江戸川病院に対する帰属意識を持って、心から江戸川病院を選んでよかったと思いながら入職日を迎えていただきたい。コロナを理由に手を抜きたくない。という思いで、2つのアクションを展開いたしました。

1) 江戸川病院応募者に対する採用面接の工夫

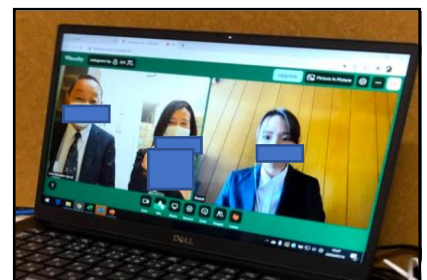
●臨場感あふれる面接

私たちは、直接いらしていただく面接については、面接の最初に、「コロナ禍ではありますが、一瞬お互いマスクを取って、しゃべらずに笑顔で挨拶しあいましょう」としました。ほんの少しの時間ではありますが、表情全体が見えると、お互い一気に打ち解けた雰囲気になりました。

また、面接前に、院長からの面接ウエルカムメッセージ動画を数分流し、江戸川病院ならではのあたたかさが少しでも応募者に伝わるように工夫しました。

●Web 採用面接の導入と工夫

Web 採用面接も大々的に展開しました。一般に Web というと、「直接じゃないから、冷たい雰囲気になるのではないか」と思われがちですが、Web の特性を理解するとかえってそれはプラス面が多いことが分かりました。例えば、接続テストと称して、面接日の朝、応募者と趣味内容などでコミュニケーションを取り、江戸川病院の院内バーチャルツアーの動画を流し、緊張を和らげます。そして、本



Web 面接の様子

番の面接では、あらかじめ朝の接続テストでそれとなく聞き取った

「応募者の不安なこと」を徹底的に説明し、最後にパワーポイントを使いながら細やかな院内説明を行い、面接が終わるころには、直接面接に来たのと同じ満足感をもって面接を終了するのを目標にしながら、一件一件心込めて実施いたしました。

私たちの病院のモットー「みんなのしあわせとおもいやり」の気持ちを共有しあうことにより、この段階で、帰属意識の向上のきっかけを作ります。

2) 内定者フォローの工夫

●内定者ホームページの開設

私たちは、内定してから入職までの間についても、「江戸川病院を選んでよかった」と思ってもらえるアクションを組みました。

一つ目は、「内定者フォローホームページの開設」です。

内定者一人ひとりがID&パスワードで開くと、内定おめでとうメッセージ&入職日までのカウントダウンから始まり、目次を開くと、院長・看護部長からのおめでとうメッセージ、江戸川病院の沿革動画、入職後看護師インタビュー動画、院内用語辞典、江戸川病院強みシリーズなど、盛りだくさんの情報を適宜新規発信し、江戸川病院に対する帰属意識の更なる向上に取り組みました。



内定者フォローホームページ画面

●内定者 Web 懇親会の開催

昨年12月には、内定者 Web 懇親会「院長&看護部長との Get together!」を行い、江戸川病院に関する景品付きクイズや、看護師国家試験対策講座も盛り込み、内定者の自己紹介を動画編集しオープニングとエンディングで流しました。



内定者 Web 懇親会の様子

<まとめ 抱負>

以上、採用面接や内定者フォローの江戸川病院一丸となった取り組みにより、内定者からは、「早く入職したいです。楽しみです」「江戸川病院を選んでよかった!」「江戸川病院の良さが伝わってきました」等、コロナ禍にも関わらず、内定者の帰属意識向上アクションを成功させることができました。

入職者は内定の段階から大切にする、これが江戸川病院の理念である「おもいやり」に繋がると確信しております。私たち江戸川病院は、どんなに状況になろうとも、内定者・入職者が一丸となってプラスのエネルギーに変えて、これからも患者さんの笑顔につながるアクションを展開していきたいと考えております。